

第6回懇話会の議事概要及び対応について

項目		主な意見（要旨）	事務局の考え方
意見交換会、イベント時の本事業PR,市民ワークショップ、インターネット市民アンケートについて	意見交換会について	ターゲットやエリアのブランディングが大事だと感じた。公園単体ではなくエリアとしてこれらの位置づけを考えていく必要がある。	新本庁舎低層部広場や定禅寺通との連携を検討するうえで、使い方だけでなく統一的なデザインを用いることなどでブランディングを図ることとしたい。
		表小路、つなぎ横丁の道路での実証実験が行われたりと、南北の繋がりが重要であると考えている。道路のデザインも大事だが、使い方についても重要である。	実証実験時には市民広場テントが設置されていて南北のつながりが分断されていた。今後は運用面での検討が必要だと考えている。
	イベント時の本事業PRについて	子育て世代からは市街地中心部でも子供を遊ばせたり、休憩したりできる場所が欲しいとの意見あり、勾当台公園が街の中に親子連れがあふれ出てくるような目的場所になれば良い。	勾当台公園はイベントがメインの公園ということもあり、遊具の整備ではなく既存の施設である壁線周辺の水辺や河岸段丘部分の石垣、樹木に直接触れるなどといった体験ができるようなデザインに活かしていきたい。
	インターネット市民アンケートについて	公園再整備後、市民の公園への関わり方について想定が必要。花壇や緑の相談窓口での活動など、みどりに関連した市民活動の広がりや市民がレンガを購入して並べたり、ベンチを設置するなど公園づくりに関わられるような仕掛けができると良い。	みどりに関わる活動については、全国都市緑化仙台フェアが青葉山公園で開催されことを踏まえ、今後フェアのコンセプトを全市民にもどのように引き継いでいくことができるか勾当台公園での展開も含めて検討していきたい。市民自らが公園の整備・管理に関わられるような仕掛けづくりというのも運営かなにかで考えていきたい。
勾当台公園再整備基本計画について	彫刻について	彫刻の基壇を取り除き、できるだけ地面から彫刻が建っているように再配置することで、彫刻への親近感や親しみを感じられる効果に加え、空間性も変わるのではないかと思う。再整備での彫刻の取り扱いについては、その作品の価値が高められるような方向で検討するべきである。	市民参加のワークショップにてファシリテーターからも同様な意見があった。寄贈された彫刻、彫像もあるため、基壇も含めての作品だと考えられる作品もあるかもしれないので、移設の際にはどのような活用ができるか今後改めて慎重に検討したい。
	現況樹木の評価と方針について	既存樹木について、今後詳細な調査が実施されると思うが、保存、移植、伐採、剪定管理などの方針についての方針を今後整理していただきたい。	既存樹木については、今年度毎木調査を実施し、その結果を踏まえ今後の基本設計にて既存樹木について具体的に整理していきたいと考えている。
	現況照明施設について	照明について現況を良く分析している。照明計画についてはこれから行われると思うが、ライティングによる各広場のキャラクターの違いを表現するような計画ができるとよい。	照明計画の際には、防犯上の照明だけでなく、各広場の特徴を演出できるような照明も考慮した計画を考えている。
	空間構成について（つなぎ横丁）	つなぎ横丁については今後、広場の延長で結果的に「道の機能」があるというイメージである。このような印象付けを行くことで民間建築物を建てる時に考慮してもらえるのではないだろうか	つなぎ横丁は広場機能とエントランス機能の両面があると考えている。「道」という表現は除くこととする。
	にぎわい広場再整備計画案（出入口）	にぎわい広場の勾当台通り南交差点付近の大木は街角の景観形成及び公園の印象付ける重要な要素である。回遊動線や滞留空間に配慮した検討を望む。	彫刻「時の広場」周辺は現状より広く空間を確保している。老朽化したカフェスペースも再築する計画としていることから、十分な回遊動線の確保も検討している。イベント時の滞留空間確保については運営面に対応する。
	(キオスク・ショップ)	キオスクとあるが固定的なもので考えるのではなく、トレーラーショップも含めた自由度の高い計画としたらどうか。	キオスクの事業者については以前より民間事業者などへのヒアリングをしっかりと行ったほうが良いと意見を頂戴している。未だ取り組めていない状況なので、規模や場所、トレーラーショップの実現性等についてヒアリングを実施し検討したい。
		飲食系のサービス導入には賛成だが、以前にあった緑の相談所のような機能のある園芸ショップ導入の可能性の検討をしてほしい。	キオスクやパークカフェなどと園芸ショップとの連携について、このエリアでの親和性は良いのではないかと考える。今後、民間業者へのヒアリング、サウンディングなどにより検討していきたい。
いこいの広場再整備計画案（水景施設）	水を活かした再整備計画を進めているが同時に整備後の維持管理についても整備計画の段階で検討するべきである。例を挙げれば、水場の清掃などを市民に募集をかけて、自分たちで維持する意識を持ってもらうような市民参画も行えればよい。子供たちも入水して遊べるような場になれば良いかと思う。	水景施設については基本設計の段階で維持管理の仕組みも踏まえた検討も行いたい。また、入水して遊べるような水深についても同様に検討していきたい。市民参加による清掃については運営の部分で検討していきたい。	
(イベント時利用・運営)	公園はつくり方よりも「使い方」が重要である。いこいの広場はこれまでよりもより憩いに特化した空間になると予想される。いこいの広場のテント配置案があるが、芝生広場が自由に使えないなどといった問題が生じないよう、新本庁舎低層部広場でのイベント時のテント配置などを検討すべきである。	テント配置案は、これまでのイベントにて歩道にて使用してテントが設置されてたが、それらが公園内だけで受け入れられるように検討していることを示したものである。ご意見のようにこれまでのにぎわいの機能が今後は新本庁舎低層部広場などがその役割を担うものと考えている。	

項目	主な意見（要旨）	事務局の考え方
勾当台公園再整備基本計画	いこいの広場の整備案についてわくわくしてくる。これができれば街（勾当台地区）に来る目的になる。現在のにぎわいの広場の227カフェはデッキテラスのみでカフェ前面が使えないので、いこいの広場の民間施設がカフェと想定した場合、デッキ部分や前面の芝生広場にて自由にイスやテーブルを配置して自由に飲食の場として楽しむことができればよいと感じる。	カフェで買ったものを芝生広場で食べたり飲んだりするという利用シーンも想定している。イスやテーブルなどの貸し出し等についても、民間事業者等へのヒアリングなどを実施しながら運営面で検討していきたい。
勾当台公園再整備基本計画	公園にとってベンチは重要。芝生まわりや展望テラスなどへベンチの丁寧な配置やファニチャーデザインの観点からも検討してもらいたい。	基本設計等で、公園ベンチというタイプだけでなく、腰壁など腰掛け機能をもったしかけを考えていきたい。ファニチャーデザインについては、周辺も含めて勾当台地区での基本デザインの方向性を今後検討する必要があると考えている。
について 【資料3】	段丘の軸と連動した回遊動線を設けて南東側の出入口を設けることで錦町公園との連続性もより強くなるものと考えている。	南東側については歩道との高低差があることや保存樹林であるヒマラヤシーダーが多数あり出入口を設けることは難しい。東側の出入口などで錦町公園との連続性を印象付けたい。
かたらいの広場再整備計画案 (石積み植込み)	歩道側からかたらいの広場に入りやすくするため、現在の石積みの植込みを改修したらどうか。	勾当台通は車両通行による騒音があり、現在の植込みはバッファの役割を果たしている。この機能は残すべきと考えているので、歩道側を大きく開くことはせずに入りやすくなるような歩道側の植え込み高さを下げたりするなどして入りやすい形態にすることを検討している。
(スロープ動線)	かたらいの広場と県庁（段丘上）の境界部にスペースがあるなら、段丘上にも動線を設置できないか検討されたい。	境界沿いの敷地の広さ（幅）と地形などについて確認し、検討をしていきたい。